令和５年度(2023 年度) 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園
幼保連携型認定こども園おかだまのもり

(1)教育目標

・心身ともに健やかでよく遊ぶこども	・思いやりのある優しく温かな心をもつこども
・自分でよく考えて、意欲的に行動するこども	・気持ちの良いあいさつができるこども

(2)重点目標

子ども、保護者、保育者、地域の方が安心した環境づくり：子どもが主体的で意欲的に学びに向かうために、子どもに関わる全ての人が協力して安心できる環境を構築することを目指します。お互いを信頼し合うために、関りをもつ機会を意識的に増やし保護者や地域の方々とのつながりをもてるように尽力する。

子どもの自ら育つ力を信じた環境構成：子どもの主体的な活動を促すために、子どもの声や姿に即した保育を行います。各コーナーの状況や子どもの姿を定期的に振り返り、保育の質を高める事を目指す。

園の活動や子どもの姿を可視化する：保護者の園への理解を深め、保護者や地域の方々の保育参加を促すため、園での活動や子どもの姿を効果的に伝える方法を模索します。共に保育を創っていける関係の構築を目指す。

保育者の資質向上：保育者が主体的に学びに向かう姿勢をもてるような環境と雰囲気をつくります。園内研究や外部研修で学びを深めるなど、目的を持ったアプローチを進めていく。

(3)評価項目の達成及び取組状況

評　価　項　目	取　組　状　況
子ども、保護者、保育者、地域の方が安心した環境づくり	相手ができていない所や問題に焦点を置く欠乏モデルでなく、できている所や信頼できるところに焦点を置く信頼モデルでのアプローチを試みた。子どもたちは信頼される事で主体的な活動が促され、保護者や地域の方はできる部分で貢献をしてくれ、保育者も自分の強みを発揮しようとする雰囲気の構築が進んだ。今後も同じビジョンをもって信頼で繋がる環境構築を進めていきたい。
子どもの自ら育つ力を信じた環境構成	子どもが自ら「遊びたい」という場所・物・人に出会えるような環境構成の為に、コーナー毎での振り返りを行い、計画を練って実行してきた。各コーナーでの姿をドキュメンテーションにして共有等、横のつながりも意識してきた。今後も続けていき、改善の必要性があった時には検討して、方略を変更していく。
園の活動や子どもの姿を可視化する	保護者へのアンケートや聞き取りを行った。SNS、ICT（マメール、One drive)、掲示用のドキュメンテーション等、園での活動を伝えるために様々な方法を探っていった。また、ラーニングストーリーという個人の継続的な学びを可視化する方法も導入した。保護者からは、園での様子が伝わるようになったとの声が届いているので、引き続き効果的な方法を模索していきたい。
保育者の資質向上	知識を深め、明らかにしたい事柄を突き詰めるために１年をかけて保育研究のテーマ「保育記録、保護やへの伝え方」について追及していった。年度内に実践を行い、職員の共通意識が高まった。今後も研究テーマを設定していきたい。

(4)具体的な目標や計画の総合的な評価結果

子どもの主体的な活動が促されたと同時に、保育者も主体的に自分の強みを少しずつ発揮していける環境構成が進んだ。各コーナーで、子どもの声と保育者の強みが合致して、多様な学びの経験を提供することができた。保護者や地域に対して、ラーニングストーリー、ICT,SNS 等の活用、園からの促しの効果からか、こぶし会やシン・オヤジの会等、保育に貢献していきたいと計画し実行してくれた。今後に向けてとても素晴らしい土台を構築することができたので、この関係を大切にしていきたい。保育の資質向上のために行ってきた取り組みも一定の効果を見ることができた。園内研究と園外研修の相互性や情報提供等、改善すべき事も多々あるため、総務、リーダー、部会等と幅広い知見から効果的な方法を模索していきたい。